

# 学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川  
**至誠学園**

平成 18年 11月 10日

〒190 - 0022 東京都立川市錦町 6 - 26 - 15

TEL 042 - 524 - 2601 FAX 042 - 524 - 2367

HP <http://www.shisei.org> e-mail [info@shisei.org](mailto:info@shisei.org)

発行責任者 施設長 高橋 久美子



## 誰もが同じようにチャレンジできる社会を

### 7月28日 安倍内閣総理大臣(当時内閣官房長官)来園

7月28日、安倍晋三内閣総理大臣(当時内閣官房長官)が政府の進める「再チャレンジが可能な社会」の実現に向けた全国行脚の一環で、至誠学園へ来園されました。主に、児童養護施設を退所した後のアフターケアや子どもたちが地域の中で生い立ちや家庭環境に左右されることなく、自己実現できる社会づくりを目指すことを目的としたものです。

安倍総理は学園の沿革や現状の説明、ビデオの紹介の後、学園園内を見学されました。子どもたちから折り紙でつくったメダルを首にかけられ、似顔絵がかかれた色紙のプレゼントには、握手をしたり笑顔で子どもと交流する一面も見られました。その後は、学園に併設されたアフターケア棟から大学や専門学校に通う4人の卒園生との懇談が行われました。安倍総理の問いかけに最初は緊張した面持ちの卒園生でしたが、一人ひとりの話に耳を傾けて下さる様子に、学園で生活できたことで、自分も同じように将来を考えることができる喜びを、思い思いに熱く語っていました。安倍総理からの思わぬ握手と名刺をいただき、記念撮影に感激する場面も。

滞在時間は、およそ一時間半でしたが、至誠学園の職員たちにも「子どもたちのために頑張ってほしい」との応援のお言葉をいただきました。児童養護施設としての学園の現状とそこに生活する子どもたち、学園の活動を理解していただく大変貴重な機会となりました。

(施設長 高橋 久美子)

# 至誠学園 児童養護施設を開設して 55 周年を迎えます 長年にわたりお力添えを下さる皆様に心より感謝を申し上げます

今日の児童養護施設に至るまで

至誠学園統括学園長 高橋 利一

## <学園開設のころ>

明治 45 年、稲永久一郎翁により創業された少年保護事業は、昭和 23 年に少年法の改正により、当時のアメリカ軍 GHQ の指導により解散を命じられた。法人至誠学舎は戦災で家族を失った子どもたちが生活を共にしていたことから、あらたな児童福祉法による養護施設への転換を考えました。当時立川市は新制中学校の開設にあたり校舎がなく、「至誠学舎の本館を校舎として使用させて欲しい」と当時の市議会議長に懇願され、第二代稲永ヨシ理事長は理事会にはかり、1 年間の約束で立川一中の分校として無償貸与しました。建物は、木造モルタル 3 階建てで、別棟も含めて 10 教室ありました。立川市は、生徒の数に校舎の建設が追いつかないという状況にあり、立川市立立川第三中学校の開設まで返還は 3 年間に延長されました。中学生の生徒手帳には、「昭和 26 年 4 月、至誠学舎内に仮校舎」と記されています。しかし、東京都民生局からは、あらたな展開について再三指導がなされており、昭和 24 年秋、仮校舎に貸している建物の一部返還を求め、保育園をはじめました。児童福祉法による施設として再出発しました。そして、昭和 26 年に全建物が返還されましたが、大勢の生徒が出入りをした建物は傷みがひどく、その修理は国民年金金融公庫からの借入金と共同募金会のご助成で行い、11 月には子どもたちを迎えました。12 月 20 日、養護施設至誠学園の認可を受け、念願の開設にたどり着くことができました。

## <子どもたちとの出会い>

開設の初日、東京都の職員に引率されて、子どもたちが夕暮れのなか角型の都営バスに乗り、荷物を乗せた東京都民生局のトラックと、共に到着した情景が忘れられません。当時、入園してきた子どもたちは都内で廃止になった施設の子どもたちと職員の方々でした。そして、乳児院からは 12 名の受入が認可の条件でしたので、乳児院より幼い子どもたちが、次々と入園してきました。賑やかな子どもの園、「至誠学園」が始まりました。

## <慶應義塾大学ライチウス会との出会い>

出会いは昭和 27 年の 5 月、こどもの日の行事として、慶應大学ライチウス会が人形劇のご案内を下されたことから始まります。このご案内を頂いたとき、園長夫妻（高橋利成、田鶴子）は麹町での都会生活の経験から、「子どもたちに、このご招待を機会としてぜひ東京へ行かせたい」と考え、なんとか行けるよう工面をいたしました。当時としては、出かけるということは身づくろいから考えなければならぬ時代でした。このご招待を受けるため、園長はピアノをいずれ買おうと銀行に預金をしていたお金を解約し、子どもたちの洋服や靴などを用意しました。その数週間後、園長から差し上げたお礼状を手に数名の学生の方がたが、学園に来園され、「どんなところが見たい、そして自分たちの出来ることが何かあればお役に立ちたい」というお申出がありました。慶應大学特有の丸い慶應帽をかぶり、詰襟の学生服に身をつつんだ方々でした。園長はこの現状を見ていただき、まず施設の整備、特に子どもたちの遊び場や学習の指導、当時の農場の草取りなどもしてほしい、というお話をしました。



昭和 30 前半頃の元園長夫妻と学園の子どもたち

その後、大勢の学生の方々が無償で来てくださることになりました。子どもたちの遊び場づくりでは、庭の木を切りその根を掘り起こして運動場をつくったり、農場での草取りや収穫などをしていただきました。また、運動会ではライチウス会の出し物、クリスマス会では人形劇、影絵が必ず毎年演じられ、学園の行事を盛りあげて下さいました。そして、今日に至るまで会員の方々の提案で、マンツーマンの学習指導、家庭教師の役を続けて下さったり、学園の大きなイベント、主にガーデンパーティーやバザーなどでは必ず会員並びに友人の方々がご協力下さっています。また、ライチウス会 OB の方々も継続的な支援をして下さっています。卒園生を家族ぐるみの付き合いや就労を一社会人として支援して下さることもあったり、至誠学園後援会員として財政的な支援にも関わって下さっています。こうしたつながりをもたせて頂いていることは、学園の大きな財産であり、子どもたちの未来を創造するライチウス会の存在に心より感謝をいたします。

## <至誠学園後援会の発起>

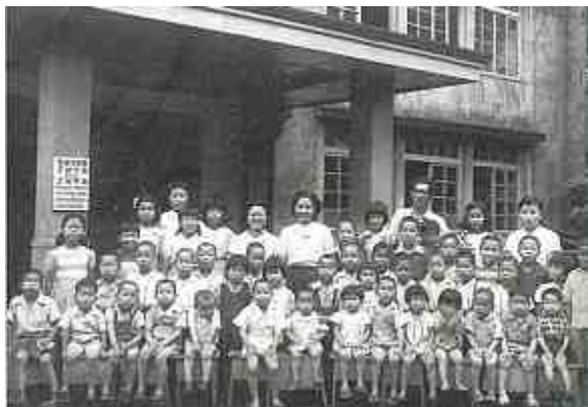
学園創立 30 周年の会で、当時の株式会社三田花店の社長三田鶴吉氏により学園の後援会をつくらうとここに参列された方々に呼びかけ、後援会発起人会が結成されました。そして、後援会の発起人総会が開かれ、会長に三田鶴吉氏が選ばれました。その後、会長を中心に役員の方々のご尽力により、後援会が徐々に発展していきました。特に、園舎の老朽改築に向けて、10 年前現在の園舎が建築されましたが、その自己資金として、後援会費の積立てられた基金 5000 万円があてられました。さらに、後援会員の各自のご努力により多額のご寄付を募っていただき、新園舎の建設が達成できました。学園の運営や子どもたちの生活を豊かにするための財政的な援助を続けて下さっています。今年の後援会発足 25 年周年を迎え、三田会長様をはじめ、役員の方々により定例的な役員会、卒業する子どもたちの自立資金、ガーデンパーティー、バザーなどへのお力添えをいただき、感謝の限りであり、いつまでも学園を見守っていただきたいと思います。現在、体調を崩されている会長様には、早くご回復をなさることを祈っております。

**「養護事業の実施をみずして…」**

- 高橋利成 学園長の日記より - 昭和 26 年 2 月

早朝大石理事への電話、先週土曜日に同婦人に依頼した都民生局長磯村氏(同氏同窓)に養老養護施設開設の尽力方依頼のため、午後 2 時都庁に行くにつき待ち合わせ度語りて約束する。

新宿から大石氏へ(遅れることを)電話して都庁へいく。先に(大石理事は)保護係長の山下氏と面談、養老を撤回、母子施設とすることに賛意を表さる。(保護課では、当時緊急を要していた母子寮の設置をすすめていた)ミイラとりがなんとやらの感なり、考慮を約束し、法人係塚本係長に面接、経過説明、大竹班長より(財団法人の)寄付行為の目的について疑義があり、即ち主要、目的たる養護事業実施をみずして他の事業をなす法人は法人管理の当局としては黙視出来ず、学舎としてはこの際目的の遂行に努力し、一応(養護施設の)経営の後他の事業に手をつなげるべきであると言ふ。児童課水野主事に現在の養老施設とする建物について(養護施設として)許可見込みを質して、可能な面接を質す。水野主事はかかる建物に改造費を払ふよりは立川市より返還の本館について計画を作り、開設見込み時期に開設予定として認可申請をすべきではないだらうかと言はる。然し本館は一応今度こそ返還は間違いないと思ふけれども、万事又延びる場合、又過去 3 年の状態の繰り返しとなるからと言ひ、一応この建物の計画を理事会にかけてみたいと思ふからと言ひ辞去する。(以下略)



開設当初の様子

**学園の研究報告の紹介**

優れた助成事業として評価を頂きました！

独立行政法人福祉医療機構によるご助成を受け、当学園の学園長高橋利一が研究会代表となり実施した、平成 16 年度子育て支援基金特別分助成事業「児童養護施設の被虐待児処遇プログラム開発事業」が、優れた助成事業として評価されました。現在、独立行政法人福祉医療機構 HP に掲載されており、評価の一部をご紹介します。

「今後の施設養護のあり方について実践的な調査研究を進め、その成果を纏めあげたこと、さらにはそれが東京都のモデル事業として採用されたことは、今後の社会的養護のあり方を先導するものとして高い評価をすることができる。特に地域分散型サテライト児童養護施設のモデル実施は、今後の児童養護界に大きな影響を与える成果と考えられる」との高い評価をいただき、本実践研究の成果を踏み台として、具体的な施策や実践を学園では試みたいと思っています。

**元至誠学舎理事長 橋本良市先生が  
お亡くなりになりました**

11 月 1 日午後 1 時 10 分、橋本良市先生が肺炎のため、ご逝去されました。享年 92 歳でした。先生は、戦後の法人の再起業に力を尽くされました。昭和 20 年に財団法人至誠学舎に奉職され、21 年には理事に、26 年に至誠ホームの開設に力を尽くされ副園長に就任、31 年には施設長に就任されました。その後 58 年 10 月理事長に就任し、特に平成 10 年立川保谷地区に展開される法人事業が拡大されるなかで地域性を考慮し、至誠学舎立川と至誠学舎東京に二分割に努力され、実現されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

ここで、当時学園 30 年誌にお寄せいただいた橋本良市先生の文章をご紹介します。

**開園の頃**

**至誠学舎常務理事 至誠ホーム長 橋本 良市**

終戦後まもない頃ですから、至誠学舎も一般家庭同様売り食い、その日その日を食いつないで、2 代目理事長を中心に事業を継続していました。

その中高橋利成先生は、旧制度の少年保護事業を新制度の子供の施設に転換すべく、大変な努力をされておりました。先生は宮内省に長らく勤務されていたため、友人知人が多く、各方面に交渉されておりました。養護施設墨田学園を引き継いで至誠学園を開設されるまでの高橋先生ご夫妻のご努力の姿は、今でもまぶたに浮かびます。

立川市の新制中学校舎に貸与していた学舎本館が返還されてからは、これを施設用に整備するため掃除など、職員にまじって一生懸命働かれました。

いよいよ 12 月の日曜の夕方、墨田学園の子供たちが保母さんたちと移ってこられ、至誠学園の開設となりました。「この子供たちを中流の家庭の子供たちとして育てていく」と抱負を語っておられたことも忘れられません。

また、学園開設前に学舎をどのように持っていか悩まれたとき、武者小路実篤先生の「新しき村」のお話を伺いに一緒にしたこともありました。

あの当時のさまざまなお苦勞と努力が実って、現在の至誠学園があることを思う時、感慨無量のものがあります。(至誠学園 30 年史より)

# 至誠学園児童福祉活動のあゆみ

活動内容		活動内容とその時期							摘要		
事業内容		1912(T1)	1951(S26)	1971(S46)	1981(S56)	2001(H13)	2003(H15)	04 05	2006		
施設養護	定員	60人 → 65人(S31) → 70人(S62) → 76人(H15)									
	本園	少年保護事業開始 養護施設転換									
	GH.日野式番館				S.63 GH昭島の家-----移転-		H14.開設			児童6名(定員内)	
	GH.日野の家				H.1 開設		-			児童6名(定員内)	
	GH.エンゼルハイム 地域小規模児童養護施設 日野キッズ				H.6 GHエンゼルハイム101-----移転-		H15.開設			児童6名(定員内) 中高男児	
	GH五番館				-		H15開設			児童6名(定員内) 児童6名(定員内) 中高女児 立川市から日野市へ移転	
	GH レオ	S17 ~ S39		S39 ~ H9		-		H17開設			児童6名(定員内) 幼児
	リーピングケア (アフターケア寮)	-		-		H9 アフターケア寮		-			自立支援・職業指導・職業指導員の配置
	モンテッソーリ 立川子どもの家	-		S53.開設		-		-			園内幼児教育地域開放
	東京都家庭的養護推進 モデル事業	-		-		-		H17開始			-
心理相談室	-		S39.開始		-		-			H9.心理治療部門の充実 H11.セラピスト配置の制度化	
子育て支援	養育家庭センター 立川市子ども ショートステイ事業				S48.開設		-		H14.終了(児童相談所へ移管)		(里親の開拓・養育援助・研修) H16.日野市より受託 H12.立川市より受託
	トワイライトステイ				-		H3.モデル事業		H14 実施		-
	児童館トムソーヤの森				-		-		H11.活動開始		自主事業(地域・学園児童対象)
	都市家庭在宅支援事業				-		-		24時間電話相談		H7.指定(厚生労働省)
	社会化事業 ボーイスカウト 立川第4団	-			S41.施行		-		-		中高生福祉講座、セミナー 他
	ガールスカウト 東京都第158団	-			S42.結成(学園を本部に)		-		-		立川地域
	しせいサイエンスクラブ 子どもの日 ガーデンパーティー	-			-		S61.学園を本部に移して発足		-		立川地域
	しせいサイエンスクラブ 子どもの日 ガーデンパーティー	-			S57.発足		-		-		科学技術館支部活動 ボランティアと実行委員会に より実施
後援会	慶応大学ライチウス会活動開始			-		S57.至誠学園後援会発足		-		H13.30周年発足 会員700人、学園の財政支援	
施設整備	S26.大修繕	S34.一部小舎制(3小舎)	S47.幼児保育棟(H7取壊し)	S61.職員宿舎・事務所	-		H8.9老朽改築 児童棟(ユニット制) 地域交流棟	H15.地域小規模児童養 護施設		国・都より補助 郵政省より補助 都単独補助	
ソーシャルワークリサーチ	-			S57.施設の社会化調査 (中学校区)	-		S63.地域のニーズ調査 (周辺4市)	H5 アメニティ21 H18 GH地域 調査		4市(立川・国立・昭島・日野)	

## 学園の夏 子どもたちの夏 そして...秋

### クロアチアの子どもたちとアート交流 (6/10)

ゴールドマンサックス証券株式会社、NPO法人子ども地球基金様の主催によるアートワークショップでは、絵画活動を通してクロアチアの子どもたちと国際交流を図っています。

今年はワールドカップ開催年。日本対クロアチア戦にちなみ、クロアチアの子どもたちから、自国のサッカー選手が描かれた絵巻が二本贈られ、今度は学園の子どもたちがそれを引き継いで、日本の選手が描き加えられました。子どもたちは自分の手足、体を使い自由にユーモアいっぱいの絵を完成させ、作品はクロアチアの子どもたちへ贈られました。この絵を通して、両国の子どもたちの交流が深まっていくことでしょう。



地域交流棟の2階から飾られた長い絵

### 学童クラブを開催しました (7/24～7/28)

恒例の夏休み学童クラブを、地域のお子さんと学園の小学生を対象として、5日間開催しました。多くの学生ボランティアのお兄さんお姉さんに見守られながら、夏休みの宿題や工作に一生懸命に取り組んでいました。

お天気にも恵まれ、柴崎体育館のプールにも出かけました。また、今年それぞれが好きな絵を描いて布製の手提げ袋作りにもチャレンジし、子どもたちも大満足でした。

### 臨海行事で真っ黒に日焼けをしてきました

臨海行事として、今年も徳井美千代様よりご寄贈いただいた陽美・勝浦の家にて、楽しい夏のひとときを過ごしました。子どもたちは、7つのグループに分かれて出発。グループによっては、台風の到来で近くのホテルにあるプールで過ごすこともありましたが、海水浴に磯遊び、釣りに花火大会、ちょっとだけ早起きをして朝市に足を運んだり、盛りだくさんの3泊4日間でした。「ただいま」の一声で帰ってきた子どもたちを迎えれば、真っ黒に日焼け顔。ほっと和む場面もありました。



### シンガポールの方々と交換交流 (6/21～6/22)(8/1～8/6)

資生堂社会福祉事業団が主催する研修で、シンガポールより児童養護施設の施設長をはじめ、ソーシャルワーカー4名が、6月21日、22日に学園で研修されました。職員会議へ同席され、両国の児童福祉について意見交換や、その後は園内やグループホーム、保育園や子どもたちが通う小学校を訪問。

それを受けて、8月1日から6日までの6日間、同財団が主催する高校生を対象としたアジアボランティア支援事業に、学園の中高生4名、職員1名がご招待をいただきました。初めての海外体験に感激し、シンガポールの施設児童との交流、観光などさせていただきました。

### 東京都児童福祉施設 都競技大会へ参加 (7/28)

東京都社会福祉協議会児童部会主催で都大会が、東京都体育館にて行われました。暑い中練習を重ねてきたドッジ部、バレ一部は日頃の練習の成果を発揮すべく参加しました。残念ながら二回戦の前に敗退してしまい、悔しくて涙する子もいましたが来年度に向かって新たな決意で取り組もうと、励ましあっていました。

### 江戸っ子杯野球大会 2006 (8/1,2)

東京都社会福祉協議会児童部会・テレビ朝日福祉文化事業団・毎日新聞東京社会事業団・報知社会福祉事業団主催の野球大会で、学園の野球部の子どもたちは、三鷹市大沢グラウンドにて試合に臨みました。テレビ朝日福祉文化事業団のお計らいで、開会式では元西武ライオンズの大家選手による野球コーチもあり、試合も一層盛り上がりました。

今年から新しいユニフォームに身を包んだ野球部の子どもたちは、チーム一丸となり、第一回戦目はコールド勝ちをおさめたものの、第二回戦では惜しくも負けてしまいました。この大会に向け練習を重ねてきた子どもたちの表情には、さすががさが見られました。

### 夏期キャンプに出かけました

#### ・ボーイスカウト立川第4団

ビーバー隊7月30日、カブ・ボーイ隊8月18日から20日、ペンチャー隊8月12、13日の日程でキャンプに参加しました。

#### ・ガールスカウト東京都第158団

8月7日から9日の2泊3日間、山梨県の八ヶ岳立川山荘にて、全部門合同の夏期キャンプを行いました。

### ボーイスカウト日本連盟 第14回日本ジャンボリーへ参加 (8/1～8/8)

ボーイスカウト日本連盟による4年に一度、海外からも多くのスカウトが参加する全国的なビッグイベント、第14回日本ジャンボリーが石川県珠州市で開催されました。立川第4団からは、4名のスカウトが多摩川地区編成隊の一員として参加。約2万人の参加者のなかで、これまでのスカウト活動で培ってきた経験をもとに、国内外のスカウト仲間との交流やキャンプ生活を通じて、自主性を学び大きく成長して帰園しました。



**2006年海外生活体験の旅 アメリカへ (8/23～29)**

今年も東京都福祉協議会児童部会、テレビ朝日福祉文化事業団主催、原田積善会後援による、アメリカオレゴン州での「2006年海外生活体験の旅」に、学園からは高校生女子1名が参加させていただきました。

優しいホストファミリーのお宅で、家族の一員のようにあたたかな歓迎を受けました。高齢者のデイケアセンターでのボランティア活動はお年寄りに食事の提供を通しての交流、雄大な自然の中で本場のラフティング体験など、アメリカの生の文化や生活を体感し、出会った方々との再会を約束して帰ってきました。

**諏訪神社祭礼、学園の園庭でも (8/26)**

町会のお神輿が、学園には26日の午後には巡行されました。地域の方々が大勢集まりました。顔なじみの町会の方々によるお神輿と山車、お囃子など、学園の園庭も一気に賑やかなお祭りの雰囲気となりました。来園された皆様には、恒例のすいかやおでんもおもてなしをし、地域の方々と交流ができました。

**いよいよ二期スタート (8/30)**

二期スタートの会を行いました。一学期のがんばりを認め合う表彰式では、成績UP賞、無遅刻無欠席賞、幼児さんがんばり賞、早起さんがんばり賞のそれぞれの表彰が行われました。

当日は、日頃よりご支援をいただいている徳井美千代様、佐々木信孝様が折りから来園され、子どもたちにあめのメダルの贈呈とお励ましいただきました。また、この日の会のために、徳井様からおみやげを頂戴し、皆で美味しくいただきながら、楽しかった夏休みをスライドなどで振りかえりました。

子どもたちは二期も頑張ろうと意気込み充分で、二期を迎えました。

**ASEAN諸国ハイレベル行政官来訪 (8/28)**

厚生労働省と社団法人国際厚生事業団(JICWEL)の共催による第4回ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合のプログラムとして、ASEAN10ヶ国の行政官20名の方々が来園されました。

学園長による施設の概要説明が行われた後、子どもたちのホームを見学されました。日本舞踊を幼児から小学生の女の子たちがご披露しました。皆様は大喜びで着物姿の子どもたちと一緒に写真を撮られていました。



**ダイエーユニオンの皆様との交流会 (9/9)**

ダイエーユニオンのメンバーの方々22名が来園され、楽しいプログラムを子どもたちのために用意し、ひとときを過ごして下さいました。室内ではクラフトやシャボン玉、ピーズづくり、外ではドッジボールやバスケットボールなどのスポーツを楽しみました。昼食は、園庭で焼きそばやホットドッグなどをいただきました。

**秋空の下、合同運動会を開催しました (10/15)**

今年で第11回目を迎えた、東京立川ライオンズクラブの皆様との共催により今年も恒例の合同運動会を開催いたしました。

国会議員の小川友一先生をはじめ、都議会議員の宮崎章先生、地元の諸先生方など多くのご来会をえて、地域の皆様からのあたたかいご声援に見守られ、子どもたちもいきいきと楽しみながら競技に望みました。ライオンズクラブの皆様には、経費のご負担をいただいた上、美味しいお食事づくりや競技にも一日里親として、子どもたちとあせを流していただきました。幅広い世代による賑やかな交流の機会ともなった運動会は、今年も盛会に終えることができました。



**施設文化祭に参加しました (10/29)**

日本民生文化協会の主催、多くの後援団体による施設文化祭が、原宿の明治神宮会館ホールにて開催されました。学園では、昭和27年より継続して参加している施設文化祭で、今年で55回目の参加となりました。器楽演奏と創作舞踊の二部門に参加し、日頃の練習の成果を発表することが出来ました。

舞踊は、邦千谷先生から引き継がれた秦野先生のご指導のもと、「食事」をテーマに子どもたちの大好きな「アイスクリーム」や「ドロップ」の踊りに始まり、4種類の野菜が登場する「サラダ」の踊り、そして全員がウェ이터とウェイトレスに扮した「レストラン」の踊りで幕を閉じました。衣装は、今年もあすなる洋裁ボランティアグループの皆様でつくっていただきました。器楽演奏は、ボーカルやドラムの担当に新しいメンバーが加わり、短い日数で練習を重ねながらも、堂々と迫力ある演奏を繰り広げました。



来たる12月3日 ウィンターバザーを開催します



日時:平成 18 年 12 月 3 日(日)

午前 10 時から午後 2 時まで

場所:至誠学園の園庭及び室内(雨天決行)

内容:物品の販売(衣類・日用品・玩具・食料品など) 模擬店・ステージアトラクション・福引き他

今年も至誠学園ウィンターバザーを開催いたします。このバザーの収益は、子どもたちへのクリスマスプレゼントやお正月の費用など年末年始の準備資金、施設運営のために使わせていただきますので、ぜひご来園下さい。

バザーに関する問い合わせは、「至誠学園バザー実行委員会」まで。

Tel 042-524-2601 Fax 042-524-2367 学園 HP にも掲載しています。http://www.shisei.org/

今後の主な予定(11月~12月)

クリスマス行事が盛りだくさん、  
2006年の締めくくりを迎えます

・11月14日 七五三

今年は7名の児童が七五三を迎えます。記念撮影のあと、諏訪神社に参拝し、晴れ着姿をご披露します。

・11月19日 第6ブロックサッカー大会

第13回目を迎える三多摩児童養護施設ジュニアサッカー大会が今年も昭和記念公園で開催されます。学園のサッカー部の子どもたちも出場いたします。日々練習に励む子どもたちに、ご声援をよろしくお願ひいたします。

・11月26日 いなげやさんお料理コンテスト

今年もいなげや労働組合様にご支援をいただき、買い物から調理まで子どもたちが力をあわせ、創意工夫によるご馳走をつくります。コンテストの審査員は、いなげやさん、園長先生、施設長先生、栄養士などが加わります。昨年は、ピザやお寿司など力作ぞろいでしたが、今年はどうなメニューになるのでしょうか。楽しみです。

・12月3日 ウィンターバザー

・12月16日 モンテッソーリ立川こどもの家 クリスマス会

・12月17日 ボーイスカウト立川第4団 さよならパーティ  
ゴールドマンサックス証券株式会社クリスマス会

12月24日 学園クリスマス会

2006年を締めくくる行事のひとつとして、12月24日にクリスマス会を開催します。今年も第1部ステージアトラクション、第2部会食会の構成で予定しています。学園にもサンタクロースがやってきます。

至誠学園後援会入会のお礼・ご案内

常日頃より、多くの方々からの後援会費のご送金に、心より感謝を申し上げます。頂戴した会費につきましては、後援会だよりにて、随時ご報告させていただきます。

今後とも、変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。新規のご入会も随時受け付けております。子どもたちのために、あたたかいご支援いただけますようご入会をお願いいたします。会費の納入につきましては、下記の口座にて承ります。(至誠学園後援会 会長 三田鶴吉)

<後援会ご入会内容>

1. 個人会員 1口(年額2千円)以上
2. 団体会員 1口(年額5千円)以上
3. 賛助会員 寄付金

振込先

口座名:至誠学園後援会

郵便振替口座...口座番号 00140-2-356681

中央三井信託銀行立川支店

事務局:至誠学園 立川市錦町6-26-15

TEL 042-524-2601

FAX 042-524-2367

<編集後記>

本号では「55周年特集」を組みました。11月は児童虐待防止強化月間で今年も各地でセミナーを開催したり、また子どもたちの行事もたくさん企画されております。

昨今子どもたちへの事件が新聞やテレビなどで報道されるたび胸を痛めます。学園の子どもたちのみならず、全国の子どもたちの平安を祈る思いです。

季節の変わり目です。皆様どうぞお体をご自愛下さい。

(広報担当:鈴木)